れの材内で占める量が大きいことなどから，むしろ二次的な木本植物である可能性が考えられた。さらに詳細な材組織の比較から低木である日本のドクウツギのタイプから *C. napalensis* や *C. intermedia* の高木のタイプへのより永続性のある形成層の獲得による進化と，日本のタイプから *C. terminalis* のタイプへの草本化による進化が考えられた。これは Carlquist が報告したニュージーランドの種類でも可能性が考えられるが，生育環境に適応した結果としての平行進化の結果なのか，両地域のドクウツギが同じ祖先から由来した結果なのかは現時点では分からない。

□佐川　昇：**山形県内陸地方産シダ植物図集** 180 pp. 1986. 山形. ¥2,000. 山形県の内陸地方というのは出羽山丘陵と奥羽山脈とに狭まれた，県の大部分を占める地域で，最上川の流域に当たっている。著者は山形市に住む熱心なシダ研究家で，今まで新産地や新雑種をたくさん発見しているが，この10年間に描きためたシダの線画の中から152枚を選んで図集にしたという。B 5 判の頁一ぱいに1種ずつの図は，細密なだけでなく特徴をよく出していて，著者の知識の確実さを物語っている。初めに同地方のシダ植物目録167種（内雑種24）が産地入りで載っているが，その中でワラビなどごく普通の種類を省き，代りに多形な種類には2枚を用意している。また31枚の雑種は専門家にとっても大変参考になる。著者の宛先は山形市東原町 3-8-13。（伊藤　洋）

□Lellinger, D. B.: **A field manual of the ferns & fern-allies of the United States & Canada** 389＋図版 45 pp. 1985. Smithsonian Institution Press, Washington, D. C. $31.45. ハワイを除いたアメリカ合衆国とカナダに産するシダ植物を解説した手引書で，研究者とアマチュア愛好者の両方をねらったものである。著者はスミソニアン自然史博物館で活躍中のシダ学者で，特に熱帯アメリカに詳しい方である。取扱ったシダは亜種・変種を勘定に入れて406種類で，各種類ごとの学名・英語名・形態の記載・生態・分布・栽培法などと，各属から種へ，各科から属へなどの検索表が本文の大部分を占めている。わかりやすく書かれているが，説明図のようなものはほとんどない。その代りにカラー写真402個からなる図版が光っている。これはテネシー大学の A. M. Evans 教授が分担したそうで，アラスカからフロリダまで飛び回って撮影したという。それぞれの種類によって生態写真・接写・葉裏の拡大などが使い分けられていて特徴がよく出ている。初心者向けにシダの集め方や観察の仕方などの説明，用語の解説などがあり，どれもよくできている。専門家にとって興味深いのは巻末の雑種複合体という項目で，*Asplenium, Dryopteris, Isoetes, Lycopodium, Polystichum* などの雑種についてのアメリカにおける実例が模式図入りで説明されている。（伊藤　洋）